



# 図書館サポーターズだより

## 明日に吹く風



肌寒い日が続き、段々とマフラーや手袋といった防寒具や温かい飲み物などが恋しくなってきましたね。そんな今こそ、暖かい室内で読書に耽るのにいい機会かもしれません。それでは今月も、図書館サポーターがオススメの本を紹介致します！

### ～図書館サポーター推薦図書～



#### 『夜と霧』

ヴィクトール・E・フランクル 著 ( 946 || F44 )

日本では「負の遺産」に分類されている「アウシュヴィッツ収容所」。1979年に世界遺産で登録され、多くの観光客が訪れています。テレビや本などでも、ユダヤ人毒ガス事件や人体実験など、とても卑劣で残酷な事件が取り上げられています。内容もとても見ていられないようなことばかりです。本書は当時第二次世界大戦後の出来事について、本書の著者でもある、フランクルの視点で描かれています。ユネスコの世界遺産委員会は「二度と同じ過ちがおこらないように」という願いを込めて世界遺産に登録したそうです。私達も、この事件について忘れてはいけない出来事に感じます。まだ、知らない方も既知っている方もぜひ、世界の歴史について触れてみてください。(R・Y)

#### 『屍者の帝国』

伊藤 計劃, 円城 塔 著  
( 913.6 || I89 )



死亡した人間を蘇生し、操ることを可能とする技術、屍者技術が普及した 19 世紀末。世界には労働力として、兵士として、様々な用途に最適化された屍者が溢れかえっていた。医学生ワトソンは、ヴァン・ヘルシング教授に屍者技術者としての能力を見込まれ、大英帝国の諜報員として「屍者の王国」を作り上げた謎の男、アレクセイ・カママーゾフを追いアフガニスタンへと向かう。

ゼロ年代最高の日本 SF と評された「虐殺器官」発表からわずか 2 年ほどで早逝した稀代の SF 作家、伊藤計劃の未完作を芥川賞作家・円城塔が完成させた作品です。歴史的イベントや架空のテクノロジー、そして「フランケンシュタイン」や「ホームズ」など古今東西の様々なフィクションが交錯する世界観と息もつかせぬストーリー展開に引き込まれること間違いなし！

(Y・Y)

#### 『西洋菓子店プティ・フル』

千早 茜 著  
( 913.6 || C43 )



この物語の主人公はパティシエールだ。祖父の営む、東京下町の商店街の中ほどにある洋菓子店『プティ・フル』で手伝いをしている。この本がとっている、違う視点で 6 本のちいさな物語が詰まっているオムニバス形式は、タイトルにもお店の名前にもなっている一口サイズの小さなお菓子『プティ・フル』そのもの。

ほっと肩の力が抜けるような素朴で優しい菓子を作る祖父とは反対に、個性を効かせた容赦のない菓子を作る主人公。それぞれの菓子をきっかけに動かされる人々が描かれており、繊細な現場の様子とおいしそうなお菓子の描写が特に素敵である。読み終わったあとは、少しフランス菓子に詳しくなった気分になること請け合いだ。

(M・S)

\*図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。

